

第 1 回

教育優秀賞贈呈

(写真：敬称略)

本会選奨規程第 29 条（電子工学及び情報通信並びに関連分野における教育実践（学会、教育機関、企業等での教育の実践）において顕著な成果を挙げ、当該分野の教育の発展に寄与した個人）に基づき、下記の 3 名を選び贈呈した。

情報数理分野及び技術英語の優れた教科書の執筆及び講演活動



受賞者 金谷健一

金谷健一君は、2013 年に岡山大学を定年退職され、現在は同大学名誉教授である。同君は、岡山大学及び前任地の群馬大学在職中から今日に至るまでコンピュータビジョンの研究に関して多くの独創的な論文を発表され、世界的に高い評価を得ており、IEEE、IAPR 及び本会のフェローを授与されている。またこれまでに和書 10 冊、訳書 2 冊、洋書 6 冊の教科書を出版されている。

同君の教科書は、学生の立場から見た疑問点を懇切丁寧に取り上げていることに定評があり、教員のみならず学生からも評判が良い。例えば、以前に出版され現在でも広く教科書として使われている応用数学の教科書に対して、2012 年に日本工学教育協会著作賞が授与されている。最近では、数値解析、技術英語、幾何学・代数、コンピュータビジョンに関する教科書を和書と洋書合わせて 7 冊出版され、これらの多くが全国の大学で教科書として採用されている。とりわけ、技術英語については市販書のほとんどが医学、生物、物理、化学、機械、電気関係の内容であるのに対して、同君が執筆した本は情報系に特化している稀有な教科書であり、情報系の学生の指導に最適との評判である。更に同君は、以前から本会に様々な解説記事を書かれており、それらの記事を御記憶の諸氏も多いと思われる。

また同君は、本会を含む多くの学協会において、研究の進め方や技術英語に関する講演やチュートリアル等を

以前から精力的に実施され、定年退職後も精力的に続けられている。更に一般社団法人学術英語学会顧問も務められている。注目すべきは、同君は現在でも国内、国外の学会で自身の研究成果の発表や招待講演を続けられていることであり、第一線の研究者自身が行う講演ということで大いに関心を集めている。

以上のように、同君は情報数理分野や技術英語に関する優れた教科書の執筆と講演活動によって学生や研究者の能力向上に寄与し続けており、その貢献は極めて顕著である。そのため本賞を贈呈するにふさわしくここに推薦する。

信号処理分野の国際的人材育成への貢献



受賞者 西原明法

西原明法君は、1973 年東京工業大学工学部を卒業、1978 年同大学院博士課程（電子工学専攻）を修了され、同年工学部助手に任用されました。その後、助教授、教授を経て、2016 年 4 月から同大学特任教授に就任し、現在に至っておられます。この間、2003 年に本会フェロー並びに IEEE Fellow、2007～2008 年度に本会企画理事、2011～2012 年度本会総務理事、2017 年から IEEE Region 10 Director-Elect として学会活動にも尽力されています。